

…主イエスのまなざしと出会う…
神さまに、隣人に、そして社会に仕える



会報

発行所: 日本福音ルーテル教会女性会連盟
〒169-0072 東京都新宿区大久保1-14-14
TEL/FAX: 03-3207-2340
Web: <https://www.jelc-w.org>
E-mail: jelc-w@big.or.jp
発行人: 八木 久美・編集人: 廣瀬 美由紀

2022.10.20
165号
25期3号

JELCW ニュースレター

Japan Evangelical Lutheran Church Women

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい ローマの信徒への手紙12章15節

巻頭言

「キリストの愛の豊かさに触れる」 日本福音ルーテル八王子教会 牧師 坂本 千歳



「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上

げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。－エフェソの信徒への手紙2章14－16節

甲府教会の礼拝堂の十字架は、木製で、横木の両端が内側に向かってゆるやかに弧を描いています。初めてそれを目にしたときに、まるでイエス様が両腕を大きく広げ、すべてのものをその腕の中に包み込んでるように思えました。

今年の4月、八王子教会に着任した際、私の目は礼拝堂正面のステンドグラスに惹きつけられました。復活の主イエスが百合の花の中に立ち、まっすぐに両手を広げているお姿でした。ピンッと左右に広げられた両腕は、両極に分かれているものを主イエスが一つにしてくださいというイメージを連想させました。

世界はますます混迷の度合いを増し、あらゆる場所で分断と対立が進んでいます。私たち誰もが、否応なくどちらかの立場に立たざるを得なくなってしまう、その自らの選択・行為によってさらに分断・対立、そして混乱の作り手になってしまうという矛盾の中で苦しみもがいている、そんな実感があります。そんな今だからこそ、対立し合うものを主イエスの十字架が一つにしてくださいという上記のみ言葉は、私たちに力を与え、目の前の課題に取り組む勇気を与えてくれるのではないのでしょうか。

今期の女性会連盟は、SDGs(持続可能な開発目標)の根

幹である「誰ひとり取り残さない」という思いを大事にして活動するという方針を打ち出しておられます。「誰ひとり取り残さない」ことは、言うほどたやすくはないでしょうが、とても大切な姿勢だと思います。各教会の女性会の声、メンバー一人一人の声、表に出ている声にも、声にならない声(少数派や軽視されがちな声)も、すべての意見、すべての視点が等しく重要です。

自分の奥にある思いを、どのようなものであっても認め、勇気を出して表現してみることで、互いの主張の最も根っこにある思いに丁寧に耳を傾け合うこと、信頼の絆を結ぶこと。どれも簡単なことではありませんし、すぐにできるものでもありません。しかし、粘り強く取り組む中で私たちが互いに成長し、人間の善悪を超えた神の完全さ、寛容さ、さらにキリストの愛の豊かさに今よりももっと触れるようにと、神様は私たちを招いてくださっているのではないのでしょうか。

「…キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるか理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」
－エフェソの信徒への手紙3章18－19節

プロフィール

JELC板橋教会出身。2002年に按手を受け、西教区、北海道特別教区の教会を経て、2016年に自己研修のため一旦退職する。JELA主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)」研修講座を修め、2018年より都内のカトリック病院において週に一度、終末期の患者のもとでハーブによる看取りの奉仕を継続しつつ、今年の4月から八王子教会の牧師として復職。趣味はトレッキング、縄文遺跡巡り。夫は甲府・諏訪教会の筑田牧師。